

協会活動状況:各地区

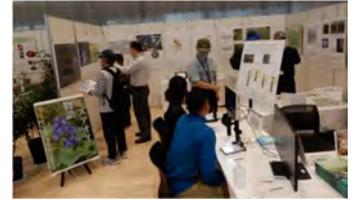
全国8地区の地区委員会では、その土地に応じた様々な活動を活発に行っております。今号では今年度の活動状況・計画や報告等についてお知らせいたします。

(2023年7月28日現在)

各地区委員会 計画・報告等

北海道・東北地区活動計画・報告 委員長 佐竹 一秀 (株式会社 エコリス)

- 第40回全国都市緑化仙台フェア関連出展等
 - ・メイン会場青葉山追廻地区「仙臺緑彩館」でのミズアオイパネル展示等(5/1～5/7)
 - ・東部地区会場のせんだい農業園芸センターでのパネル展示(5/27～6/18)
 - ・3.11メモリアル交流会でのミズアオイの講演会(平塚顧問)と埋土種探し(6/18)
- 大槌町「ミズアオイの池をみんなで守る会」支援
 - ・湧水エリアビオトープへの木本植物植栽(イオン環境財団助成:6/15～17)
 - ・ミズアオイ町民観察会と試食会(8月予定)
 - ・次年度に向けたエコアップ計画と助成金申請
- いわき市三和町「ホタル水路再生計画」の支援
 - ・第1回ほたるのさんぽみちinみわ開催(三和町商工会主催:7/1)
 - ・ホタルの生息調査・捕獲・小学校主催ホタル放流会の実施
 - ・三和小学校児童によるカワニナの繁殖(継続実施)
 - ・ホタル水路・ハナショウブ田の維持管理
- 寒河江慈恩寺「ホタルの里プロジェクト」の支援
 - ・マコモダケの苗の確保(4/15)と親子田植え体験会(5/20)
 - ・ビオトープゾーンの生き物・植物観察会(6/10)
 - ・親子ホタル観賞会(7/7)
 - ・マコモダケ親子収穫体験会/試食会・親子座学学習会(9～10月予定)
- 会員の拡大



緑化仙台フェア 出展状況



いわき市 第1回ほたるのさんぽみちinみわ



大槌町 木本植物の植栽



寒河江慈恩寺
生き物・植物観察会

関東地区活動計画・報告 委員長 砂押 一成 (株式会社 砂押園芸)

- ビオトープフォーラム2023静岡 運営協力
- 自治会・学校ビオトーププロジェクト継続支援実施
 - ・前渡小 学校観察園ほたるの森 ホタル放流・観賞会(ひたちなか市) 同校脱炭素チャレンジカップ出場支援(東京都文京区)
 - ・村松小ビオトープ ホタル放流・観賞会(東海村) 同校エコアップ作業協力
 - ・常葉台ビオトープ ホタル観賞会 生物調査 3回(ひたちなか市)
 - ・高野宿ビオトープ ホタル放流・観賞会 生物調査 3回
- 地域ホタル飼育活動の継続実施
- 赤羽幼稚園 園庭ビオトープ学習会実施(東京都港区)
- Facebook等SNSを使った地区情報発信の継続での情報発信
※Facebook:「日本ビオトープ協会 関東支部」
- 他団体との情報連携強化
- 会員拡充



学習会の様子



赤羽幼稚園ビオトープ



脱炭素チャレンジカップ表彰式

北陸・信越地区活動計画・報告 委員長 久郷 慎治 (株式会社 久郷一樹園)

- 県内ビオトープ関連団体との交流及情報連携
 - ・ビオトープ管理士会富山県支部との合同研修会
 - ・富山県ビオトープ協同組合との先進地視察研修
 - ・射水ビオトープ協会との勉強会
- 会員の拡大
 - ・隣県の石川県・新潟県への働きかけ
 - ・BAを介した会員の勧誘



射水市青井谷里山ビオトープ



2022.12.20 現地観察会の様子

静岡地区活動計画・報告 委員長 藤浪 義之 (株式会社 藤浪造園)

- 「ビオトープフォーラムin静岡2023」開催 ・フォーラム2023.6.23、見学会2023.6.24
- 麻機遊水地保全活用推進協議会の参加
 - ・麻機遊水地クリーン作戦参加、自然観察会協力 2023.5.20
- 麻機湿原を保全する会 活動支援
 - ・夜の昆虫観察会 8月予定
 - ・サクラタデ観察会 10月予定
- 「ホタル水路づくり研修会」への協力 2023.5.22参加
- 中町浄水場里山再生 指導及び協力
- 学校、福祉、企業ビオトープ維持管理支援
 - ・小学校ビオトープ 支援 2023.6.6(現地調査)
- 静岡地区会の開催
- 会員の拡大



フォーラムの様子



フォーラム2日目見学会

中部地区活動計画・報告 委員長 青山 正尚 (太啓建設 株式会社)

1. 中部ブロック会議の開催
 - ・7月18日開催:BA研修会について等検討
 - ・9月後半開催予定
2. BA認定・更新研修会の開催
 - 日付 2023年10月26日(木)27日(金)
 - 場所 豊田商工会議所会館
 - ※詳細は決まり次第、協会WEBページにUPします。
3. SDGs AICHI EXPO 2023 in Aichi Sky Expo 出展予定
 - 日時 2023年10月5日(木)～7日(土) 10:00～17:00
 - 会場 愛知国際展示場(Aichi Sky Expo)展示ホールA
4. 企業ビオトープの見学研修会開催予定
5. 協会本『ビオトープづくりの心と技』の販売活動
6. 会員募集 法人・個人会員(法人会員1社 入会予定)



SDGs AICHI EXPO 2022 協会ブースの様子



愛知県ブースにて協会の活動紹介

近畿地区活動計画・報告 委員長 西川 勝 (近江花勝造園 株式会社)

1. 盤石跡地調査 第2回8月調査
2. 蒲生の湯 小さなビオトープ池調査 第2回 10月
3. 竜王町貯水池 動物、植物調査・観察会 11月
4. 希望ヶ丘文化公園水辺観察会・調査5月～翌3月
(観察会1回・調査1回)
5. 琵琶湖岸ハマゴウ保全活動への協力
6. 会員拡大



希少種ハマゴウ保全活動



研究者による説明会

中・四国地区活動計画・報告 委員長 梶岡 幹生 (株式会社 カジオカL. A)

- ◇切串小学校 古鷹山ビオトープの観察会の報告
- ・日時:2023年4月28日(水)9:30～12:00
 - ・対象:切串小学校全校生徒(47名)+引率の先生(6名)
 - ・講師:山本、清田
 - ・内容:①危険な生き物(マダニ、スズメバチ、マムシ等)、かぶれる植物について
 - ②虫の取り方や、ビオトープの生き物について説明
 - ③ビオトープの生き物採集と観察
 - 2班に分かれてビオトープ池周辺の生き物や植物を観察



危険な生き物について説明

◇古鷹山の夏のビオトープ観察会(7月8日(土))は、大雨のため延期になりました。



生き物採集と観察

九州地区活動計画・報告 委員長 田中 和紀 (内山緑地建設 株式会社 宮崎営業所)

1. 地域自治区・学校ビオトープ活動支援
2. 海岸浸食状況把握・日向灘ウミガメ孵化送り出し会
3. 蛍の里環境清掃・学習会
4. SDGSの17項目の2. 7. 14. 15の推進
5. 会員拡充の継続呼びかけ



総会・フォーラムの実施

◇第21回通常総会

日時:2023(令和5)年6月23日(金)11:00~11:30
 会場:静岡県男女共同参画センター「あざれあ」5階502会議室
 (静岡県静岡市駿河区馬淵1丁目17-1)



総会

◇設立30周年記念「ビオトープフォーラムin静岡2023」

ー自然との共生を目指して…そして豊かな未来のためにー

日時:2023(令和5)年6月23日(金)13:00~18:00
 会場:静岡県男女共同参画センター「あざれあ」2階大会議室
 主催:特定非営利活動法人日本ビオトープ協会
 後援:環境省、文部科学省、農林水産省、国土交通省、静岡県、静岡市、
 自然環境復元学会、公益社団法人 静岡県造園緑化協会(順不同)



【フォーラム内容】

開会挨拶 協会 副会長 鈴木元弘

協会(新)会長 久郷慎治

祝辞 静岡県くらし・環境部参事 伊藤晃氏

静岡市都市局都市計画部参与兼

緑地政策課長 塩澤友宏氏

自然環境復元学会会長、東北学院大学教授 平吹喜彦氏

第1部 功労者表彰式 鈴木邦雄氏、杉山美智子氏、西川勝理事相談役

第2部 第15回ビオトープ顕彰表彰式、野澤日出夫顕彰事務局長審査報告

- ・学校ビオトープ大賞「どじよりのビオトープ」
- ・審査委員長賞「もりビオ」
- ・CSR特別賞・地域貢献賞「ビオトープ富士」
- ・環境活動推進賞「大槌町郷土財活用湧水エリア ビオトープ」
- ・協会会長賞(プロアクティブ活動功労賞)「射水市青井谷里山ビオトープ」
- ・CSR特別賞「アイシン辰栄株式会社 幸田工場 ビオトープ」

事例発表:「どじよりのビオトープ」「ビオトープ富士」

第3部 基調講演「ビオトープが未来を拓く-30年のビオトープ活動から-」

協会代表顧問、元横浜国立大学学長 鈴木邦雄氏

特別講演「SDGs・生態圏におけるビオトープの重要性」

協会特任顧問、常葉大学名誉教授、ふじさんネットワーク副会長 山田辰美氏

特別講演「在来種ニホンミツバチとその養蜂を支える自然環境-里山地域の事例から-」

日本在来種みつばちの会理事、いであ株式会社 国土環境研究所 生態保全部門 自然環境保全部 研究員 藤原愛弓氏

閉会の辞 日本ビオトープ協会 理事相談役 野澤日出夫

参加者:103名

30周年記念である本年度のフォーラムは、協会設立の地である静岡で、充実した内容で盛会裏に開催することができました。関係官庁他のご後援と講師の先生、協会員の方々をはじめ、皆様にご協力をいただき、心より厚くお礼申し上げます、今後ともご指導ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

【本フォーラムは、公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会の助成を受けて実施いたしました】

※フォーラム報告書は協会WEB活動実績ページ等に、

顕彰紹介は本号P.17-19掲載、また協会WEBビオトープ顕彰ページにUPしております。

※基調講演(鈴木先生)、特別講演(山田先生)、顕彰事例発表2件の映像をYouTubeで公開中

YouTube→「日本ビオトープ協会」で検索、ぜひチャンネル登録もお願いいたします。



◇フォーラム2日目見学会

日時:2023(令和5)年6月24日(金)9:30~12:00

場所:あさはた緑地(静岡市葵区)

参加者:25名



フォーラム会場内では、協会本部、各地区活動、SDGsについてのパネル展示も開催いたしました

NPO 法人 日本ビオトープ協会
第 15 回ビオトープ顕彰受賞各紹介

◇顕彰委員会委員長・顕彰事務局長の講評・報告

『ビオトープフォーラム in 静岡 2023』2023 年 6 月 23 日静岡県男女共同参画センター「あざれあ」にて第 15 回顕彰を受賞されました団体の方々にお祝い申し上げます。

去る 4 月 13 日に顕彰委員長鈴木邦雄代表顧問のもとで、顕彰委員会が開催され、本年度は全国から 6 団体が選出されました。いずれも特色のある、ビオトープの創成・維持・活用を行っているもので、生物多様性を豊かにする地域貢献、環境活動貢献など優れた取り組みであり高く評価されました。

◎学校ビオトープ大賞を受賞されました、愛知県「どじょりんのビオトープ」は、豊田市立寿恵野小学校のビオトープで、2010 年にも応募・受賞されていて、創成されて 23 年になりますが、近くを流れる矢作川の自然に近い環境が維持されていて、子供たちの自然環境の場として、生物多様性や自然保護の重要性について、近隣の企業やビオトープの専門家を交えて継続的に活動されていて、高い評価となりました。

◎審査委員長賞に選定された、滋賀県「もりビオ」は、旭化成（株）守山製造所のビオトープであり、琵琶湖の水源地としての繋がりを意識し、環境変化に敏感な淡水魚ハリヨと赤とんぼのマイコアカネを指標生物として、企業のみならず、自治会や行政、専門家などとのパートナーシップで生態系の維持保全に取り組むと共に、観察会を通じてモニタリングを行うなど普及啓発を進めていて高く評価されました。

◎CSR 特別賞・地域貢献賞ダブル受賞の、静岡県「ビオトープ富士」は、（株）オカムラ富士事業所の、設置されて間もないビオトープですが、会社の環境における理念として ACORN（どんぐり）を掲げる、持続可能な社会への貢献活動の一環であり、事業所の周辺のモウソウチク繁茂のエリアを、多自然な環境へ改変して、従業員や地域住民と共に環境活動の場、環境教育の場、憩いの場を提供していて高く評価されました。

◎環境活動推進賞に選定された、岩手県「大槌町郷土財活用湧水エリア ビオトープ」は、ビオトープとしては未完ではありますが、岩手県沿岸の東日本大津波で甚大な被害を受け、復旧復興に邁進されている中で、数十年前の農薬耐性の無いミズアオイの埋土種子が、大槌町の特徴的な豊富な湧水の中で奇跡的に再生した全国的にも稀有な事例で、現在も継続して産学官、NPO、地元住民などの活動で保護保全が図られていて、この長期にわたる活動を高く評価し致しました。

◎協会会長賞（プロアクティブ活動功労賞）に選定された、富山県「射水市青井谷里山ビオトープ」は、2014 年にビオトープ大賞を受賞しておりますが、それ以降もビオトープの増設を行いながら、エコアップを図り、ホクリクサンショウウオの繁殖が見られるなど、希少生物の生態系保護活動を市民提案により、官民協力したまちづくりや子供たちの健全育成に貢献する素晴らしい活動となっていて、今般プロアクティブ活動功労賞を授与して高く評価させて頂きました。

◎CSR 特別賞に選定された、愛知県「アイシン辰栄株式会社 幸田工場 ビオトープ」は、かつてはこの地域に棲息していた絶滅危惧種コイ科のウシモツゴに着目して、その生態系を復元するビオトープとして、2018 年より継続して保護保全活動を行っていて、復元環境の充実と共に指標とするウシモツゴの繁殖・定着していて、この維持管理や生息調査など従業員の環境意識向上にも貢献していて、高く評価されました。以上 6 件表彰させていただきましたが、各団体におかれましては、ビオトープの普及啓蒙、環境教育、地域活性化につながる活動を継続していただくようお願い申し上げます。（協会顕彰事務局長 野澤日出夫）



※フォーラムの顕彰事例発表「どじょりんのビオトープ」「ビオトープ富士」は、YouTube で映像を公開
詳細は、協会 WEB ページをご覧ください

◇学校ビオトープ大賞

【下記各顕彰書類より転記】

名称	どじょりんのビオトープ
受賞者	豊田市立寿恵野小学校、株式会社鈴鍵
<p>【テーマ・概要】 本校ビオトープは、平成12年度、寿恵野小学校の児童のために、豊田東名ライオンズクラブから健全社会形成の一手法として学校ビオトープを寄贈されたものである。学校の近くには矢作川があり、本校のビオトープは地下水を汲み上げ注水されている。完成当時の新聞では、ビオトープの完成度の高さが評価された一方で、ビオトープの敷地面積が狭く、生き物を自然繁殖させることができるか心配を指摘されていた。しかし、令和4年度現在、様々な植物が生い茂るビオトープには、完成当時導入した動物以外にも、トンボやカエル、ハクセキレイなど様々な生き物の姿が見られるようになった。児童たちが放課に遊び、授業で観察する自然観察園となったビオトープは、これからも地域の生き物たちが生息しやすい場所として、馴染んでいくだろう。</p>	
<p>【整備方針と管理手法】 ビオトープの整備と管理は、本校教師と児童によって行われている。教員からは、児童の安全を守る観点から、「ビオトープ内で走らない」「木の棒を振り回さない」などのきまりを決めた。また、児童の話し合いで「魚や昆虫をいじめない」「川に石や木を投げいれない」などビオトープを保全するためのきまりを定期的に呼び掛けている。また、在来種を守るためのザリガニ駆除や外来種の除草は児童が中心になり、休み時間や授業中に行っている。水車や地下水の汲み上げポンプなどは、業者による点検などを含め、教員と業者で協力して行っている。また、業者や地域の有識者をお願いして、植物の管理方法を学び、児童と一緒に実践し、ビオトープに生き物が住み着く環境を作っている。</p>	
	

◇審査委員長賞

名称	もりピオ
受賞者	旭化成株式会社守山製造所、株式会社ラーゴ、琵琶湖博物館、金森自治会湧水公園を守る会
<p>【テーマ・概要】 ハリヨ池は、水の循環を考慮し池の底の2箇所から地下水を湧出させる。岸から中央付近にかけて植栽基盤を設置し、U字型の水域にして、水の循環をよくした。水路は池から逸出したハリヨが留まる場所（緩流域、石の配置）と、流水性のトンボの繁殖環境（砂底）を設けた。石や植物の配置を工夫し、繁殖を含め、ハリヨが生活史を全うできるように配慮している。 トンボ湿地は、抽水植物の生えた止水域にした。基本的に雨水で維持するが雨水が少ない場合は、埋設した配管から地下水を供給する。 湿地周辺にはチガヤを植栽し、その他の箇所には草本を育成させ、マイコアカネの生育環境を整えた。</p>	
<p>【整備方針と管理手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 池干しなど、管理しやすいよう大、小の池を設置した。 生息環境を再現するため、水深50cm程度の深場や稚魚の生息場となる流れが緩やかな水域を造った。また餌となる底生動物や地域のトンボ類等にも配慮し、これら水生生物の生息に適した浅い湿地を造った。 池の底に埋設したパイプから細礫を通じて地下水を湧出させ、湧水環境を再現した。また、植生基盤を用いてU字型の流路を造り、水が滞りにくい構造にした。 産卵場所、隠れ場所の確保のため、護岸の一部は石積みとし、池底にも適度に自然石を配置した。また、池の周囲や中央部にはスゲ類等の水生植物を植栽した。植栽苗は地域遺伝子に配慮し、湖東地域産を使用した。スゲ類の様な水面に垂れ下がる植物は、池の水温の上昇防止にも効果的である。 	
	

◇CSR 特別賞・地域貢献賞

名称	ビオトープ富士
受賞者	株式会社オカムラ、様株式会社静岡グリーンサービス、株式会社藤浪造園
<p>【テーマ・概要】 私たちの企業活動は、自然環境や多くの生物の営みの連鎖によって支えられています。オカムラは持続可能な社会の実現を目指し、これらの環境を守り育てる活動「ACORN」を全社的に実施しております。この度建設を致しました「ビオトープ富士」は、自然との共生をテーマに、事業所の敷地境界となっていた竹林エリアを「憩いの森」「里地」「昆虫の森」「水景」の4つのゾーンにテーマを分けて整備を致しました。憩いの森には小川が流れており、先日も冬の渡り鳥であるオオカワラヒワやジョウビタキなどが羽を休めたり水を飲んだりしておりました。またエリア内には遊歩道やベンチが整備されており、従業員のリラクゼーションの場としても活用されております。</p>	
<p>【整備方針と管理手法】 憩いの森ゾーンは小川や池を整備する事により生物の生息環境をより良い物にしております。伐採した竹はエリア境界のフェンスや園路の竹チップとして活用しました。 里地ゾーンは裾野地域の傾斜を活かした里の景観を創出する為「果樹園」をイメージして整備をしました。昨年6月には完成前の園内で労働組合主催の苗木植樹祭も開催しました。 管理の面では、月に一度 施工業者様に入って頂きビオトープエリアの維持作業をお願いしている他、障がい者福祉施設の方にも草取りなどの軽作業を実施頂いております。管理部門である環境保全課でも積極的にビオトープエリアの清掃の実施しており、最近では他部門の従業員も一緒に清掃をしてくれるようになりました。</p>	
	

◇環境活動推進賞

名称	大槌町郷土財活用湧水エリア ビオトープ
受賞者	岩手県大槌町、ミスアオイの池をみんなで守る会、岩手県立大学 総合政策学部
<p>【テーマ・概要】 大槌町の市街地は、東日本大震災の大津波により壊滅的な被害を受けた。残された自噴井による湿地に、この地が市街化する以前の埋土種子と思われるミスアオイが開花した。岩手県立大学平塚教授（協会顧問）の研究により、除草剤耐性の無い、古い遺伝的形質を持つ株であることが明らかになった。2021年6月に大槌町は、郷土財活用湧水エリアとして、ミスアオイ、イトヨ（海洋系×淡水系）などの保全のための遊水池を創出した。その後、岩手県立大学やビオトープ協会の指導により、住民・県・町・NPOなど多様な参加による「ミスアオイの池をみんなで守る会」（代表曰澤良一氏）を結成し、ビオトープとしての質を高めるための管理運営が行われている。また、この活動は、岩手県立大学総合政策学部の協力により、2023年活動計画がイオン環境財団の助成対象となった。三陸震災復興の自然環境復元活動の一環として今後も取り組んでいく。</p>	
<p>【整備方針と管理手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミスアオイのみならず、多様な生態系を創出する環境へ順次エコアップを図る ・ミスアオイビオトープ池周囲への樹木植栽（防風・日陰・林縁植物） ・ミスアオイ遊水池の沈下種子攪乱作業（発芽前） ・ビオトープ湿地以外のエリアの雑草刈取り作業（農薬不使用） ・乾燥が進む隣接エリアへの湧水導水・・湿地エリアの拡張 ・「ミスアオイの池を守る会」会員へのミスアオイについて理解を進める講話 ・上記一環での「ミスアオイ試食会」開催（ミスアオイビオトープの認知度向上策） ・町民・町当局・県立大槌高校・東京大学国際沿岸海洋研究センターなどとの連携による持続可能な管理体制（ミスアオイの池を守る会活動レベル向上） ・町民の癒しの場、幼稚園児・小中学生の環境教育と遊びの場創出 	



◇協会会長賞（プロアクティブ活動功労賞）

名称	射水市青井谷里山ビオトープ
受賞者	NPO 法人自然環境ネットワーク・射水ビオトープ協会、株式会社久郷一樹園
<p>【テーマ・概要】 過疎化が進み、耕作放棄地や休耕地が増え、侵入竹や外来生物（セイタカアワダチソウ）などの繁茂により急速に失われつつあった里山にビオトープを築造し、従来生息していたホタルやモリアオガエル・サンショウウオ等の貴重種を始めとする多くの在来生物の保全を図ると共に、そのビオトープを拠点として多くの生物や自然と触れ合う事業を行い、一方で里山のコミュニティーの復活と推進を図り、近隣の子供達の健全育成を図る環境教育の場としても広く活用している。又、生物多様性・生態系の理念を啓発し地域住民や関係団体と共に希少動植物・地域在来動植物・絶滅危惧種の保全を図ると共に、人口減少による過疎化や高齢化の進行による里山の生物多様性の衰退を防ぎ、数々の自然観察会や研修会・環境セミナー・シンポジウム・講演会を開催し地域の活性化にも大きく貢献している。</p>	
<p>【整備方針と管理手法】 平成25年に地元射水市の公募提案型市民協働事業に「生物多様性保全型里山ビオトープの形成に関する事業」として提案し、採択された後は、多自然型ビオトープ池を築造し毎度里山保全・整備事業として周辺の竹林伐採や除草管理・枯枝や下枝処理等の維持管理作業に取り組んでいる。 又、令和4年に同じく射水市の公募提案型市民協働事業に「射水丘陵における『人間の営みと野生動物（特に両生類）の共生』を促進する事業」を提案し採択された。以下がその具体的な活動方針である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 野生生物の保全に関する事業 1.両生類（ホクリクサンショウウオ・アカハライモリ・クロサンショウウオ・トノサマガエル）魚類（淡水魚）生息地及餌場の確保 2.同上の産卵地の確保 3.同上の生息地と産卵地を結ぶ回廊を整備 ● 里山の魅力・生物多様性の理念を発信する事業 1.生物の生息調査・産卵調査 2.自然観察会・自然環境セミナー等の開催 3.植樹・侵入竹の伐採やチップ化等の里山体験 4.巣箱づくり・竹細工づくり等のワークショップの開催 5.水生昆虫調査・観察会等の自然に親しむ行事 6.里山ビオトープフォーラムの開催他 	



◇CSR 特別賞

名称	アイシン辰栄株式会社 幸田工場 ビオトープ
受賞者	アイシン辰栄株式会社、株式会社エイディーグリーン
<p>【テーマ・概要】 このビオトープでは絶滅危惧種の水生生物を保護していくことを目的として整備した。保護する水生生物は、愛知県碧南市にある碧南海浜水族館館へ相談しウシモツゴという魚を保護することと決定し放流を開始した。このウシモツゴは、もともとは幸田工場周辺に生息していた種であったが、土地開発等の影響を危惧して1992年から碧南海浜水族館館で保護していた魚で、現在西尾市では野生種は絶滅してしまっていた。今回の活動によりウシモツゴが25年ぶりに里帰りを果たすことができた。</p>	
<p>【整備方針と管理手法】 ウシモツゴ保護を目的とした小川や池を設置し、その他多様な生物や植物が生息しやすい様、湿地帯を設けるなどして環境の整備を行った。また使用する水は浄化槽の処理水を再利用し、水の有効活用を図った。 管理面においては、定期的に草刈り、池の水抜き等のメンテナンスを実施し、生き物や植物が生息しやすい環境維持に努めている。また年1回、専門家によるビオトープ内の生態調査を実施し管理状況を把握するとともに、従業員向けに生物多様性取組み紹介や在来種と外来種の区別方法などの勉強会を定期的実施している。</p>	



その3. 杉並区立柏の宮公園

農学博士、元東京農業大学
日本ビオトープ協会顧問

立川 周二



現在の杉並区は、かつてのどかな農村の風景は見られませんが、都内としては利便性が高く、住環境にも恵まれて、戸建ての住宅で埋め尽くされています。これからご紹介する柏(かし)の宮公園は、住民たちの自然に対する望みを形にし、野生の生きものとの共生を考える拠り所となっています。都市化の膨張が進むなか、奇跡のような4.9haからなる土地空間は、公園を目標とした区の努力が実り、落手することに至りました。奇しくも2000年丁度、区は住民参画のワークショップ方式を取り入れ、公募に応じた延380名を越える住民が集い、公園づくりの話し合いが開始されました。専門的な設計事務所の支援を得ながらも、現地で確認のうえ提案された要望を調整して、基本計画案をまとめ上げました。さらに将来に渡る、区民自らが公園の管理に関わる会を立ち上げ、区民と区が協働で公園を育てることが決まりました。このことは「柏の宮公園憲章」として広く合意がなされ、未永く約束事として残されます。具体的な活動は、「柏の宮公園自然の会」に入会した人が、植生・水辺・水田・花壇の4つに分けた作業計画から、自分の都合に合わせて自由に選択し、公園の管理のための作業に参加実施します。例えば「未来の森21」では、日々の活動の結果、植樹された樹木が20年を経て雑木林として立派に生育し、見事な武蔵野のフローラが観察できるようになりました。また中央の広くオープンな「草地広場」は、低茎草本類を主体とした原っぱを形成し、幼稚園や低学年の子供達が走り回り、花摘みや虫採りができます。その他にも神田川の崖線として残されたゾーン、水田、池などのビオトープの生きものを護り育てるため、多くの人々が一体となって汗を流しています。

本稿をまとめるにあたり、「柏の宮公園自然の会」宮内隆夫さん、田中耕太郎さん、地元で親しく携わる本協会の大場淳一さん、古山隆志さんにお話を伺うことができました。ありがとうございました。



図1. 神田川は都市にみられる堀込川で、増水時には越流して大きな被害を及ぼしました。洪水対策がなされて今では、増水時には流量が乏しく、生きものには厳しく感じられます。



図2. 柏の宮公園の南側は神田川的作用による崖線が見られます。その傾斜地にはニレ、アカマツ、クヌギなどの雑木林が見られ、貴重な植生が残されています。



図3. 「みらいの森21」は植樹された樹木が育ち、明るい雑木林となりました。林下にはスミレ、キンラン、オトギリソウ、ホタルブクロなど、季節によって武蔵野の草花が咲き、出迎えてくれます。



図4. 保護地の重要な植生の除草作業は、植物種を確認しながら抜き取りで除去します。てまひまを要する作業ですが、雑草群落の遷移を方向づけるためには効果があります。



図5. 都会の中には子供のための、安心安全な野原が少なくなりました。日本のビオトープには子供の遊びの場＝遊びながら環境を身体で覚える場所が、今こそ必要であるとされています。



図6. 1950年代までは神田川に沿って、水田農業が見られました。公園の水田は住民の希望により、再現されたされたものです。田植えや収穫などが、イベントとして実体験できます。



図7. 以前はプールとして利用されていた施設を改良して、水を貯めて水生植物を移植し、素性の確かな荒川水系のメダカを放流しました。トンボやアメンボ類の種類もそい池の環境が整いました。



図8. 崖線の一画に「林丘亭」と呼ばれる茶室があります。これは新宿区にあった若狭藩主酒井忠勝の茶室を移築したものです。日本式庭園の池と共に、崖線の景観に馴染んでいます。



図9. 柏の宮公園の生きものの保全には、市民と行政が一体化していることが重要だと思います。「柏の宮公園自然の会」代表宮内隆夫さん(左)と古山隆志(協会会員)さんよりお話を伺うことができました。

編集後記

本号では第15回ビオトープ顕彰の受賞ビオトープを紹介させていただきました。受賞者の皆様の活動に心から敬意を表します。

さて、当協会は設立30周年を迎えることができました。会員及び関係者皆様のご支援とご協力で改めて感謝申し上げます。

記念号のテーマは、2023年6月に行った設立30周年記念「ビオトープフォーラムin静岡2023」と同じ『自然との共生を目指して・・・そして豊かな未来のために』とし、野澤相談役の巻頭言では、協会設立当時の活動の歴史に触れております。また30周年記念として顧問の先生方にお言葉をいただきました。(次号では他の顧問の先生方のお言葉を掲載いたします)

また、平吹喜彦先生(新・顧問)の特別寄稿では、感性と景観の視点からご自身の体験を踏まえ、景観を読み解くことの難しさと楽しさ、大切さについてご助言いただきました。

会員・BA等投稿では内海千樫様による素晴らしいキツツキの写真とご報告をいただき、いきものたちのシリーズでは神垣健司様に、ためになる「ビオトープのトンボ」について、立川周二先生のコラムでは「杉並区立柏の宮公園」をとりあげていただきました。その他各地区の仲間の活動報告もごぞいます。ぜひご覧ください。

今後も協会誌「ビオトープ」を通じ会員の皆様に発信を続けてまいります。とりあげてほしいテーマ、有益な情報等ございましたらぜひ協会までお知らせください。引き続きご協力をお願いいたします。

最後に、本誌発行にあたり大変お忙しい中、執筆いただきました先生方、関係各位の方々にご心より感謝申し上げます。

編集委員:情報委員 若月学・砂押一成、正副総務相談役、本部事務局

自然との共生をめざして一緒に活動しませんか。◇会員募集中◇

- | | |
|-------|--|
| 会員の種類 | ・法人正会員 この法人の目的に賛同して入会し、活動を推進する法人 |
| | ・個人正会員 この法人の目的に賛同して入会し、活動を推進する個人 |
| 年会費 | ・法人正会員 100,000円 |
| | ・個人正会員 10,000円 |
| | ※10月以降3月末までのご入会は規程により、年会費は半期分となります。 |
| 会員の特典 | ・年2回発行の機関紙「ビオトープ」の入手。 |
| | ・会員メーリングリストによりE-Mailによるシンポジウム、研修会等情報の入手。 |
| | ・その他、地区活動への参加など。 |

入会手続き、入会申し込み用紙については、WEBページ<https://www.biotope.gr.jp/application/apply/>または下記本部事務局までメールかFAXでお問い合わせ下さい。

日本ビオトープ協会誌「ビオトープ」No. 52

2023年(令和5年)8月31日発行

発行所	特定非営利活動法人 日本ビオトープ協会
発行責任者	久郷 慎治 (日本ビオトープ協会 会長)
編集	協会 情報委員会・正副会長・総務委員会・本部事務局
本部事務局	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-6-7-101 TEL 03-6304-1650 FAX 03-6304-1651 E-Mail honbu@biotope.gr.jp URL https://www.biotope.gr.jp/

会員、ビオトープアドバイザーからの投稿歓迎

ビオトープの研究、実践事例等、会員・ビオトープアドバイザーの投稿を募集しています。投稿頂く場合は本部事務局までご一報下さい。



古鷹山ビオトープ観察会
(広島県江田島市)